

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019年4月

第60号

主な予定

平成31年度

NPO 法人通常総会

4月28日(日)

14:00~16:00

於：管理棟前

3月31日(日)13時より、年に一度のこんぶくろ池活動報告会が、千葉大学柏の葉キャンパスのシーズホールにて開催されました。この報告会はその年度を通じてNPOが行った主に調査活動について、東京大学、千葉大学のアドバイザーの先生はもちろん、公園緑政課のご担当者も交えて発表するとともに、こんぶくろ池公園をフィールドに研究活動を行なっている学生さんからも成果を発表してもらう場となっています。

今年の内容は盛り沢山であり、こうやって1年を振り返ると実に多くの調査・研究活動が行われているかを改めて気づかされます。それはこの公園の環境が魅力的であることの証とも言えると思います。

NPOからは「ズミの保全・再生プロジェクトの進捗状況(通信2019年3月)」、「きのこの調査(通信2018年12月)」、「土壌生物を用いた「自然の豊かさ」評価(通信2018年4月)」、「新ハンドブック及びリーフレット作成(通信2018年8月)」、「平成30年度アドバイザー会議報告(通信2019年1月)」を発表した他、「植物の標本作成」や「鳥の調査記録」もデータを公表しました。この2つについては次回の通信で紹介したいと思います。

また今回は、千葉県昆虫談話会からもご参加いただき、昆虫相調査について発表いただきました。その要旨については次頁にて紹介させていただきます。



昆虫相調査

上田 真佐江

昆虫相調査に実績のある千葉県昆虫談話会により、こんぶくろ池自然博物公園での調査が実施されています。10以上の方法を駆使して昆虫を捕獲するなどし、同定（分類上の所属の決定）が行われます。これまでの調査概要について、こんぶくろ池活動報告会要旨集に掲載された千葉県昆虫談話会からの報告の抜粋をもってお伝えします。

【「2018年度こんぶくろ池活動報告会要旨集」から抜粋】

昆虫相調査について（2018年）

千葉県昆虫談話会



当会は、千葉県の昆虫相解明を目的として、これまで県内各地で昆虫相定点調査を実施してきた。こんぶくろ池自然博物公園では2018～2019年の調査を予定している。当該地の昆虫相調査は、近年、特に著しい環境変化が行われている県北部の一例として、現状を記録しておく意義があるといえよう。【中略】

調査は1月～12月まで、日中+夜間の調査を月1回、さらに夏季は日中のみの調査を実施した。【中略】

成果の概要：2018年の調査では、14目219科1,376種の昆虫を記録した。データは現在集計中であり、まだ未同定や未確定の資料も多いが、現時点のデータについて、県北部で種数の解明率が比較的高いグループについて比較した。

1. 鱗翅目（チョウ） 5科49種を記録した。県北部では5科80種、このうち絶滅種や一時発生種などを除いた確認可能と考えられる種（5科69種）に限ると、7割以上の種が記録できた。当地の環境から想定される種は概ね記録できており、今後、種数が大きく増加する要素は少ない。
2. 鱗翅目（ガ） 33科377種を記録した。県北部の記録種数は64科1,832種であるから、科数で半分、種数は2割に過ぎない。造成地に囲まれた孤立した環境を考慮しても、確認率はきわめて低い。しかし、これまでに県内での記録が少ない種を多産したり、ヤマユガ科、カレハガ科の大型種がほぼ欠落するなど、当地の環境の特徴を示している可能性がある。
3. 蜻蛉目（トンボ） 6科22種を記録した。県北部では9科69種が記録される。絶滅種や産地が局限される種、大中河川に棲息する種を除いても9科48種であることから、確認率はまだ低い。特

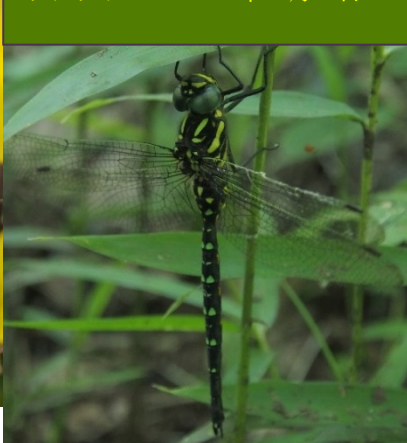
にイトトンボ類など均翅亜目が少なく、今後の調査で増加する可能性がある。

4. 鞘翅目（甲虫） 66 科 568 種を記録した。県北部では 88 科 2,310 種が記録されており、その 1/4 の確認率である。これはガ類と同様な確認率であるが、ガ類と比較すると飛翔力が弱い種が多いグループであり、当地の樹林が孤立していることを考慮すると確認率はそれほど低いものではないのかも知れない。また、他地域と比較して、類似の環境に共存しうる近縁種の種数が少ない（1 属あたり 1 種～2 種である場合が多い）グループが多い傾向が認められており、特定環境下での、優占種による寡占状態が想定される。

キリギリス 2018 年 4 月 8 日



サラサヤンマ 2018 年 6 月 3 日



背中にハートマーク！？
エサキモンキツノカメムシ
2018 年 7 月 8 日

写真提供：NPO こんぶくろ池自然の森会員 金児／徳永

当公園では「動植物を持ち出さない、持ち込まない」を原則に、生物の多様性を維持しています。
希少種も多数生息しています。入園される皆様のご協力をお願いします。

自由当番活動報告

高山 武俊

健康 足踏み竹



健康 足踏み竹

青竹踏みで足裏から健康に！

足裏は第二の心臓とも言われる程重要です。青竹踏みマッサージで、足のむくみ・足裏や甲のストレッチに。高齢になるとトイレの回数が多くなりがちです。足裏のつぼを刺激することで、膀胱が柔軟になり頻尿の改善に繋がると、テレビの健康番組で放映していました。皆さんも試してみてくださいは・・・。

2月に25個作製しましたが、寄付金で21個が捌けました。態々、買い求めに見えた来園者もあり健康に関心が高い様です。

正門掲示板

前事務局長の古橋さんが作られた正門の掲示板が、長い年月風雨に晒され大分傷んでいました。

岡本さんから修理出来ないかとお話があり、検討したところ屋根部の損傷は進んでおりましたが、掲示部はよく工夫され、良い材料が使われておりこのまま残したいと思い屋根部のみ取り替えることにしました。

石渡会長と相談をしながら、伐木材の杉皮と竹林の竹を切り出して、屋根部の葺き替え作業を行いました。



正門掲示板

公園散策路案内標識

来園者から、「初めて来ましたが都市近郊でこんな素晴らしい公園があるのには吃驚しました。案内図はありますが地図を見慣れていないので園路の案内標識があれば」とお話がありました。設置については事務局と相談して検討しますと答え、石渡・岡本・萩原さんに検討を依頼し、設置する事になり、30年8月より製作に取り掛かりました。

ポール・標識板のペンキ塗りは、宗像さんと千葉大学の学生さんに協力いただきました。取り付けポールは、一号近隣公園の残材（鉄材）を4本使用し、現場設置は石渡会長のアドバイスで電蝕を避ける様に、伯耆田・岡本さんと穴掘り・レベル出しを行い設置しました。案内板の表記は萩原さんをお願いし、2度も3度もやり直



園内案内標識

しながら最終的には外国の方も来園されるので、日本語・英文字の併記になりました。案内板は伯耆田さんが鉄鋼専用ビスで取り付け、案内表記は屋外用のコーキング剤で接着しました。昨年の4月に発案以来、約1年がかりで完成する事が出来ました。

来園者からは大変好評の様です。皆様のご協力に感謝申し上げます。

編集者註：先日の北部地区のズミの保全作業中、木に絡まった藤の蔓を回収し、早速籠も編んでくださいました。初めて作られたとのことですが、売り物のように見事な出来栄えで素晴らしい作品です。今年度から高山さんには工作事業のリーダーとしてご活躍いただきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願ひします。



新入会員紹介 小林 達明さん



平成15年のこんぶくろ池公園整備基本計画策定時から、環境創造会議委員として、また現在はアドバイザーとして永らくこんぶくろ池に携わっていただいている、千葉大学教授の小林先生がNPOの会員になってくださいました。

現在は副学長というお立場で益々お忙しい中、アドバイザー会議や保全活動報告会など、NPOの行事に足を運んでくださり、多くのアドバイスをいただいています。また現在取り組んでいるズミの保全・再生プロジェクトについては過去の論文や研究内容を共有いただくなど、大変心強い存在です。引き続きご指導よろしくお願ひいたします。

趣味：登山

4 月理事会

2019 年 4 月 6 日（土）10:00～13:00

出席理事：石渡、市川、上田、岡本、萩原

オブザーバー：藤原、中川望、山上、北田

1. 審議検討事項

（1）役員選任

- ・ 役員選任に関する実施細則（案）再検討
- ・ 平成 31 年度役員及び事業部体制（案）了承。役員の所掌、事業担当及び相談役を新設。

（2）平成 30 年度総会

- ・ H31 年度予算案中、ポンプ、バリカンカッターについては柏市に在庫を照会、その他は了承。
- ・ 総会準備⇒4 月 10 日（水）10 時～事務局メンバーと岡本で事務打ち合わせ

（3）情報管理のあり方

- ・ 大学学位論文等、調査及び昆虫懇談会等のデータの保管⇒情報管理の在り方について今後引き続き検討

2. 報告事項

（1）ハンドブック等追加配布

市内の大学、県立中学・高校、私立中学、高校等 24 校

（2）平成 30 年度柏市委託事業実績・精算報告（3/29）

（3）平成 31 年度公園維持管理業務委託契約締結（4/1）

（4）AED 管理棟事務所に設置

講習会の日程調整

編集後記

新しい年号も「令和」に決まり、残すところ平成の時代もあと僅かとなりましたが、平成 22 年（2010 年）に発足した NPO の総会が 28 日に開催されます。平成 30 年度は、NPO にとって新しい体制を模索しながらもがき苦しんだ年となりましたが、新しく会員に加わってくださる方も多くいたのがうれしい年ともなりました。平成 31 年度からは新しい体制でより組織を強化しながら様々な取り組みにチャレンジしていけるのではないかと期待しています。

おかげさまでこの通信もちょうど 60 号となり 5 年が経過しました。さらにこの場でいろんな報告ができるよう、引き続き会員皆様のご協力をよろしくお願いします。（萩原秀夫）